

の
 ほしか「ははよとて」つたことは、このシロトリ
 は、葉は食べても 木には、えりきえりした
 いことある ほしかの甲斐いも虫か毛虫は、
 木ほとんどとをべしきかか木にしきや
 いたかこと文で考えかからとあり
 りました。そしてまう一つたとえ十
 のにまごを産んどそ 五匹 しかめくらつこに
 おこれまたほしかの著とすかりました

② ほんとに ~~あ~~ になうは ~~あ~~ かい。ありま
それは、イギリスに ~~あ~~ いったとき
ねにナメクジ ~~あ~~ かい。あ、うは ~~あ~~ せり
いたこと ~~あ~~ ありました。そのときは、お父
かいしあ ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい
い ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい
い ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい
い ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい ~~あ~~ かい

今回はいここに虫をたらいした
ことについてお話しします。
いては、あがちゅうくつにめずりな
大さき、けん、しやう（二毛）をとらけた
とくろをとりていた。その時、あ。
かはるきよしたまうです。
ほしもそうたふたふは、こころ

ほんとはよく知っている、というわけでは
 ない。それはあることとして置いておいた。
 どうしてか、しよ「あるめが」と思っ
 た。しかもその「さ」はたゞ
 あるだけではない。末に自然には
 消え去るものがある、と云う。